

村々の
争いなどもあって
みんな命がけで
お米を
つくっていたんだね



そうだった！
まだ勾玉まがたま
一個しか
手に入れて
なかった

あつちに
呼ばれてる
みたい



もっと安心して
お米をつくるのが
農民たちの
叶かなえたい
願ねがいだと
思うんだけど

わたしたちも
そろそろ
願ねがいを
叶かなえるために
先に進みましょう



室町時代に入ると
守護は、荘園しやうえんや公領こうりやうを支配して
守護大名となりました。

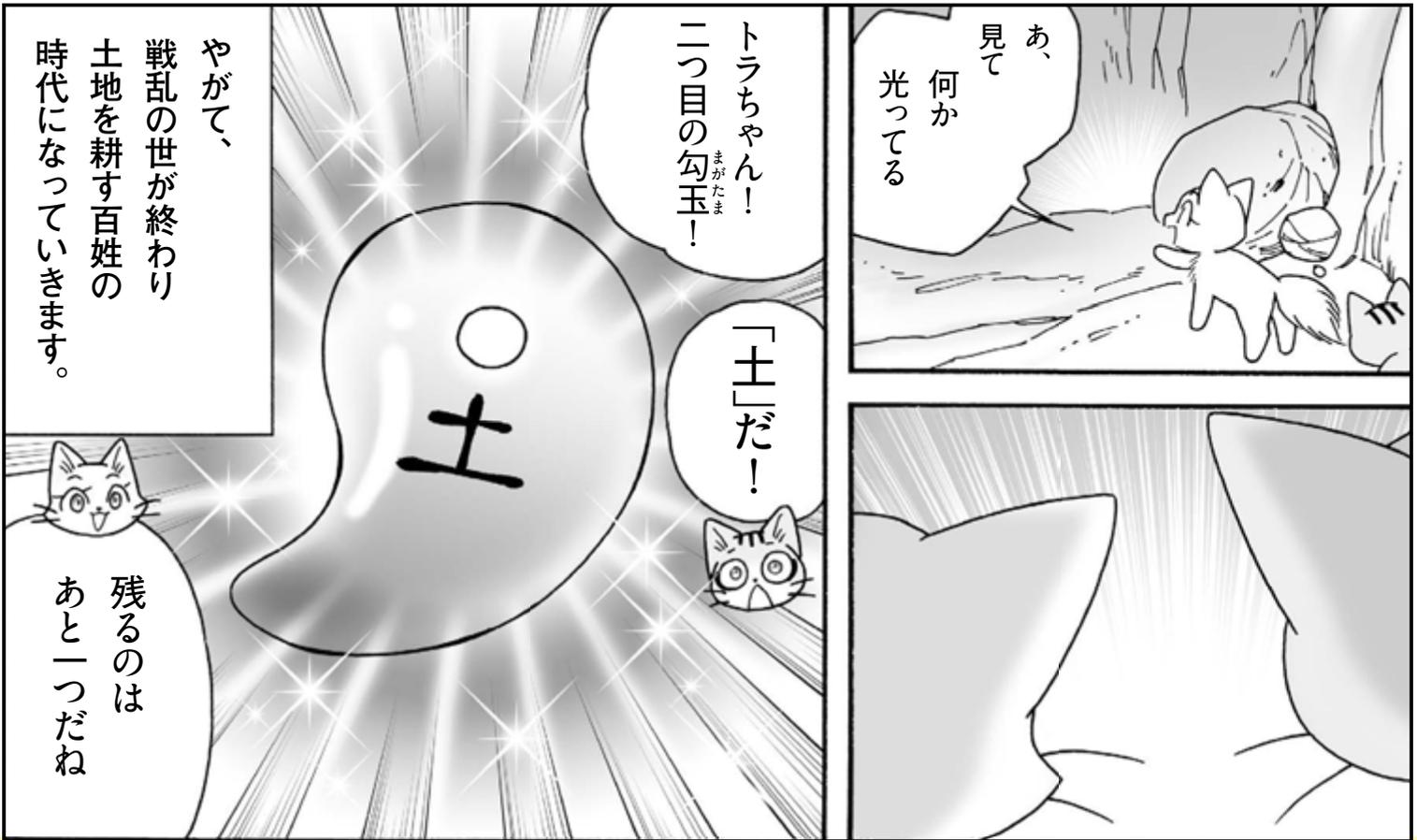
その後、戦国時代となり
下剋上げこくじやうの風潮が広がる中で
農民たちは不当な扱あつかいには
団結して集団で武器を取り
一揆いっぎなどで対抗たいかうしました。



次の時代は
もっと安定
していると
いいな

豆知識

戦国大名は、米の収穫量を上げて国力を高めるために、武将たちを指揮して開墾かいこんと一体的な土木工事を展開しました。「善く国を治める者は、必ずまず水を治める」という中国春秋戦国時代の言葉があり、土木工事の重要性が分かります。



解説

たいこうけん ち かながり
太閤検地と刀狩

天下統一を果たした豊臣秀吉は「太閤検地」により、戦国大名の領国ごとに不統一だった耕地面積の単位(町、反、畝、歩)や米を量る柵を統一するとともに、一筆ごとに田畑の別、その位(上田、中田など)、どの百姓が耕作するかを「検地帳」に記しました。

これにより土地の権利関係が複雑な荘園の時代は終わり、富の基盤である年貢納入の仕組みが単純化されました。秀吉は全国の大名たちに石高に応じた軍役等を課することができるようになるなど、米の生産力(石高)は主従関係の基礎となりました。

さらに秀吉は「刀狩令」で農民から武器を取り上げて「兵農分離」を進めることにより、百姓の身分を固定しました。

このような政策は、豊臣の支配を確かなものにするとともに、身分制度や石高制などの米を中心とする近世の社会システムの基盤となりました。



検地の様子



検地帳

(「大地への刻印」より)

豆知識

米を量る単位には「石」「斗」「升」「合」があります。1石=10斗=100升=1000合です。米1合はご飯お茶碗2杯分くらいの量です。この単位は、現代でも暮らしの中で使われています。どんなものに使われているか、探してみましょう!

